

我國幼稚園教育界の現状と問題 (一)

倉 橋 惣 三

我國の幼稚園教育界は、大體の趨勢に於て、素より發展の方向にある。殊に、幼稚園令の新定は、我國幼稚園教育の永き根本的缺陷を充たすと共に、之れを一劃時期として、幼稚園の立法的基礎と、社會的使命とが確立せられた譯であつて、將來の發展に向つて、合法的新出發點が置かれたものといへる。且つ、其の後の實狀も徐々ながら、喜ぶべき進程を進みつゝあつて、斯界關係者諸氏の熱意と努力とは見るべきもの決して少しとしないのである。

しかも、焦慮を以て斯の教育を凝視しつゝあるものよりすれば、現状に向つて、不満足を感ぜしむること、依然として甚だ多い。こゝに、歳首にあたり、同志諸君と共に、斯界の喜憂を語つて、本年の計を立てると共に、自ら鞭打するところあらねばならぬと思ふ。

一 幼稚園増設の問題

先づ喜ぶべきは近年に於て、我國幼稚園の數の著しく増加しつゝあることである。之れは、一面、現

代社會生活の情勢による自然的現象であるに相違ないが、また以て、幼兒期教育の理解の發達せることを認めなければならぬ。殊に、入園志望者の激増は、愛兒精神に於ける、家庭の覺醒の著しきを示すものである。尙ほまた、これによつて、從來往々にして、幼稚園教育を特殊富有家庭のものと考えられてゐた偏見が、社會的平準に歸しつゝあるものと見ることも出来る。誠に喜ぶべき傾向といはざるを得な
5。

ところで、此の著しき幼稚園普及に就て、見落すことの出来ない事實は、新設幼稚園の殆んど全部が私立幼稚園であることである。而して、吾人は素より之れを喜ぶものである。すべて教育上の私立施設は、其の設立者の教育的識見と感激とに發するものであつて、此の種特志家の多數にあらはるゝことは社會の教育意識の向上を示すものに他ならぬ。また、私立施設は、その地方的必要に對して、公立施設よりも速かに順應せるものであつて、此の意味から見れば、私立幼稚園の増設は、現時に於ける各地方の、幼稚園に對する急速なる増進を證してゐるものである。いづれにしても、最も喜ぶべきことである。更に進んでいへば、私立施設は、公立施設よりも、其の教育的主張を容易に實現し得る、大いなる便利をもつものであつて、殊に幼稚園の如き、土地の情況に適應することを最も必須とするものに於ては、幼稚園教育の多^{プライエザ}種性といふ點からも、よき私立幼稚園の増設を、大に歓迎するものである。

しかも、此の喜ぶべき現象に對して、公立幼稚園の發達が、殆んど停滯の状態にあるかの如きは、誠

に遺憾にたえざることである。勿論、箇々の内容については、當事者の努力によつて、大に充實されつゝあることを疑はないが、少くも數の上に於て、頗る遺憾の状態にある。教育は、各種の私立施設を迎ふると共に、一般的社會施設としては、當然、公立によつて、普及されてゆく必要がある。之れ、公立が私立よりよいといふ如き、舊弊なる意味ではなくして、教育に對する社會自體の當然の責任事實として、そうである筈なのである。しかるに、現状の如きは、その意味に於て、社會自體の遺憾とせざるを得ないことである。素より、之れにも、いろ／＼の理由的辯解が成り立たないではない。教育施設に關する一般公費の關係の如きは、いつも、其の理由として擧げらるゝものである。しかし、すべての公的施設の場合に於て言はれ得る如く、それは、費額そのものゝ問題ではなくして、施設に對する理解の問題である。すなはち、我國現狀に於ける、公立幼稚園増設率の少きは、幼稚園教育の必要に就て、自治體當事者の理解の不足に歸せざるを得ぬ。相當の都市町村に於て、幼稚園の増設の如き、經費として實は決して大項目ではない筈である。若し、當事者にして、其の必要を知ること切なるものがあらば、其の實況決して困難でないのである。

我國に於て、自治體の幼稚園施設として、最も進歩せるものは、恐らく岡山市であらう。市の公立小學校と、市の公立幼稚園とが、殆んど同一的に取扱はれてゐるのは、同市の最も誇つてよいところである。次に、數の比率に於て岡山市の如くてないが、其の絶對數と、施設の充實に於て、確に發達せるも

のは大阪市である。素より、箇々として優れたる幼稚園は他の市町村にも少くないが、自治體の幼稚園教育に對する普及的態度としては、此の二市以外の地方は甚だしく不充分である。切に考慮せらるべき餘地が多いのである。

幼稚園に於て、幼稚園は所謂隨意施設であつて、義務施設を強ゆることは、少くとも今日に於ては出來ない。しかし、幼稚園令精神は、明かに其の一般的普及を期してゐるのであつて、殊に、公立幼稚園の普及を期してゐるものであると信ずる。吾人は、教育施設の内容價值として、公私の別を一切等差するものではない。しかし、我國の幼稚園教育普及の全般的意義に於て、現状の如きは、公立の餘りに發達少なきを健全なる現象と見ることは許し難い。私立幼稚園の益々増設せらるゝと共に、公的施設としての幼稚園の發達促進こそ、主要なる努力の一つの方向でなければならぬのである。

二 保姆養成機關の問題

幼稚園の普及と共に、最も肝要なる問題が保姆の養成にあるは言を俟たぬ。

此點に關して、既設の各保姆養成所が、幼稚園令の示すところに従つて、其の充實を加へたことは勿論である。假令へば東京、奈良の兩官立施設も、學校長の方針と當該關係教官の誠意によつて、益々其の完成を期せられつゝある。しかも、國立の保姆養成機關として、その規模に於て、未だ多くの擴張

の必要がないとはいへない。その定員に於ても充分でないが、之れは附屬幼稚園に於ける實習の關係があるとして、奈良の附屬幼稚園に於て、その實習の機關としての必要上、先年度に於て、保母定員の増加の行はれたる如き、事は小なる如きも、其の進むところを見なければならぬ。

次に、其の養成年限に於ても僅かに一ケ年を通則とするは、決して満足すべきでない。東京の保育實習科が、一ケ年以上二ケ年となつてゐて、將來に於て、此の方面の充實の餘裕を存せるは、其の希望のあるところを見得るのであるけれども、しかし、現在の實際は、幼稚園令の示すところの最少限度によつて、一ケ年が普通と考へられてゐる。之れは、保母の待遇の關係から定められた資格であつて、立法上の論據に出づるものであるが、一ケ年の教育を以て、決して充分とすべきではない。諸外國に於ける例は勿論、現に、我國に於ても外國人經營にかゝる養成所に於ては、寧ろ二年を通則としてゐるのである。

但し、養成所の内容の問題は、茲に多く論じないとして、一層問題とすべきは、其の數の點である。幼稚園令が公布せられた時、もつと速に、各地に保母養成機關が設けらるゝかといふ希望は、多くの人々の胸にあつたのである。しかも、吾人の知るところによれば、特志家による一二の私立施設が設けられた外、特に公的に、その新設せられたるを聞かない。勿論、今日の幼稚園の全數から考へて、各府縣に委く保母養成機關が設けらるゝ必要があるといふ様なことは言へない。しかし、一養成所の定員は、述前の如き事情によつて、頗る限定せられざるを得ないので、全國樞要の地點に於て設置せらるゝの必要が

ある。殊に、定員の少なきと、實習機關を具備すべきことのために、保姆養成所の設立は、箇人經營として、頗る難事である。一種の犠牲事業たらざるを得ないのである。社會は拱手して、之れを特志家の出づるに待つてゐるべきものではなす。

更に考察を細かにすれば、現在に於て、幼稚園の保姆は其の年齢と待遇の關係上、自由に遠隔の地に赴任することが容易でない。出來得べくんば生地、然らざるも、居住上好都合なる事情のある土地に於て、就職するといふことは、公職としての理論上の議論は別として、其の幼稚園の爲にも實際上便宜の多いことである。従つて、それ／＼の地方に於て、その保姆を得ることが都合がよいのである。それには地方的に養成するがいゝ。殊に今日の如く、多數の志望者が、僅か一ヶ年の修業のために、遠く中央部に集まることは、箇人的經費の上に於ても不便が多い。即ち、少くとも、全國數地に適當に配置せらるゝ必要がある。

尙ほ、保姆の養成機關に附隨して、保姆の學力補充機關も亦、極めて必要である。すべての教育に於て、教師の學力補充といふことは絶えず行はれてゆかなければならぬものであるが、幼稚園の如き、僅か一二ヶ年の特別教育を以て資格とするものに於ては、其の必要が殊に多いのである。又、現在の實際として、小學校正教員の資格あるものは、幼稚園保姆たり得るといふところから、小學校の教育には充分の經驗を有し、教育者としての一般的實力に於ては充分であるが、幼稚園教育に就ては、聊か理論上

の教養を缺くことがあり得ないと限らない。その場合、是非とも必要なことは、その學力補充の機關なのである。

而して、此の爲に從來執られた方法は、多くは其の時々の講習會であつた。東京と奈良とに於ける文部省主催の夏期講習會のみは、恒常的といつていゝもので、此點は、文部省に向つて、其の施設を多としなければならず、益々力を用ゐられんことを切望にたえぬ。そののみならず、各地に於ける幼稚園講習會も、從來に於て、多大の貢獻をしてゐるのである。殊に幼稚園令公布後、府縣なり市なりが、保育會主催と相俟つて、公的の講習會を催す風の起つたことは、誠によろこぶべきである。吾人の希望するところ亦、そこにあるのであつて、各自治體の教育當局が、小學校教員のために講習會を常催すると同じように、幼稚園保姆のためにも、之れを常催するに至らんことを望んでやまぬのである。

尙ほ、此の問題に關聯して、各地に、幼稚園教育に充分の理解ある視學の任命せられんことを希望せざるを得ない。いふまでもなく、視學の任務は、單なる教育行政の管督ではなくして、地方教育の實際上の指導である。その指導は、教育の全般的方針に就てもあるが、教師に對する實際指導も亦、その重要なる一面である。幼稚園といへば、保育上の新説の説明、新方法の批判、新設備、新教具の紹介、必ずしも新の紹介のみでなく、實際の批判、之れ等は、視學當然の任務である。之れ等のことは、實際家の任務に相違ないが、日々多忙なる實際に執筆するものにあつては、研究の暇が意に任せぬところも

ある。深い研究と、親切な態度とを以て、指導をして呉れる人があることは、極めて有益なことである。然るに、現在に於ては、視學は他の方面に忙しくて、幼稚園のことに、充分積極的に力を用ゐ難い場合が多い。之れは、地方幼稚園の發達の上に、いつも最も遺憾とされてゐることである。

此の他、保姆養成及學力補充に大關係を有する一つの問題は、全國各府縣立女子師範學校に必ず附屬幼稚園を附設することである。これは現行法規に於て隨意になつて居て、未だ、其の附設を見ざる處がある。普通教育の研究機關であり、普通教育者の養成機關である女子師範學校として、其の本質上から言つても缺陷たらざるを得ないが、殊に、幼稚園令に於て、小學校正教員は保姆たり得るのであつて見れば、すべての小學校正教員は當然、幼稚園教育に關する教養を與へられてゐなければならぬのである。之れは、幼稚園令に當該條項を規定するに當つて、一つの重要な實際問題として論議せられた位のことであつたのである。勿論、今日の師範學校の教科の教授要項の中には、保育法といふこともあつて講義だけは受けてゐる筈であるが、それも、實際に於ては甚だ不充分である場合が多い。それでも附屬幼稚園があれば、自らその理解も助けらるゝ譯であるが、附屬幼稚園の設置のない場合には、到底、幼稚園教育の正しい理解は與へられないのである。若し、附屬幼稚園あり、その主事又保姆の人々が、此の教育に就て、専門の研究をつゞけてゐれば、それが府縣内の幼稚園教育界に、自ら、直接間接の貢獻をなし得る次第である。女子師範學校の完備の爲にも、地方幼稚園教育界全體のためにも、之れは是非とも實現せられたいことである。(以下次號)